



岩崎灌園『本草図譜』に描かれた大黄

大黄 (ダイオウ)

中国西部の高山に自生するタデ科の多年草ダイオウの根茎（地下茎）および根。形が大きく内部が黄色いことから大黄といわれ、薬効が峻烈快速であるため「將軍」の別名がある。中国最古の薬物書『神農本草経』に「腸胃を蕩滌す」と胃腸の中の物を洗い流すと理解できる記載があり、現代でも瀉下薬として使われる。漢方医学ではさらに抗菌、鎮静、血液循環改善など多岐にわたる薬能を期待して使う。大黄を含む漢方処方に大黄甘草湯、大柴胡湯、桃核承気湯などがある。日本へは、正倉院の薬物の中に現存することから奈良時代には伝わっていたと考えられる。左図、岩崎灌園は根茎と葉を並べ見開き二頁に渡って大きく描いており、大黄の力強さが伝わってくる。(P.3へ)

第70回日本東洋医学会学術総会開催記

名誉所長 花輪 壽彦

6月28日から30日まで、第70回日本東洋医学会学術総会（会頭：花輪壽彦）が京王プラザホテル（新宿）にて開催された。今回は70回という節目の総会で、北里大学東洋医学総合研究所が主管となり「伝統の継承と近未来へのチャレンジ」を大会テーマとしてプログラムの企画・運営に当たった。伝統医学なので、伝統の継承と発展について、^{きようじ}矜持すべき点と時代の要請に柔軟に対応すべき点を明らかにすることを第一に考えた。一方、科学技術の進歩、情報化社会に漢方や鍼灸はどう向き合うべきか、AI時代における伝統医学のあり方について、近未来へのチャレンジと題して課題と展望を考えた。

こうしたテーマに基づき特別講演・教育講演・招待講演・シンポジウム・ワークショップなど多数のセッションを企画した。特別演題プログラムは表の如く多岐に渡った。未来志向の識者の特別講演（「暗黙知と経験知」「日本の医療の過去・現在・未来」）など「東洋の経験知と西洋の科学知をどう結びつけるか」といった点につき大変示唆に富む御話を聞くことが出来た。また「気の医学」であるとされる東洋医学について合気道道主の植芝守央先生に「合気道について」と題した講演と実際の演武を披露頂いた。日々の稽古の積み重ねが「身に沁みついて」、日常の所作が無理なく無意識に動くまで身体化することが「心身一如」の実践知であると感じられた。

新たな企画として、近未来を視野にスマホを使っ

て、壇上の演者と会場参加者が双方向に議論できる「インタラクティブセッション」も試みた。

北里医局員、OBの協力を得て、「漢方入門セミナー15コマ」「医師のための鍼灸セミナー3コマ」を企画し、漢方・鍼灸の基礎知識の系統的連続講座を行えたことは多くの参加者から好評を頂いた。

漢方入門セミナー（全15回）

第 1 回	『漢方の診察法』 鈴木邦彦
第 2 回	『刻み生薬（煎じ薬）の調剤と服薬指導』 緒方千秋
第 3 回	『消化器疾患の漢方治療』 星野卓之
第 4 回	『喘息の漢方治療を整理する』 福田知顕
第 5 回	『循環器疾患の漢方治療』 伊東秀憲
第 6 回	『頭痛の漢方治療』 五野由佳理
第 7 回	『「漢方医」になると皮膚科も診る』 望月良子
第 8 回	『生薬の効能と証を結びつけて選択する腰痛症の漢方治療』 八代忍
第 9 回	『産婦人科』 森裕紀子
第 10 回	『精神科領域における漢方処方』 蒲生裕司
第 11 回	『内分泌代謝疾患』 有島武志
第 12 回	『耳鼻科診療に役立つ漢方』 石毛達也
第 13 回	『小児の漢方治療』 堀田広満
第 14 回	『認知症診療と漢方』 川鍋伊晃
第 15 回	『がん・緩和医療』 早崎知幸

医師のための鍼灸セミナー (全3回)

第 1 回	『鍼入門講座』石原 武
第 2 回	『鍼応用講座』伊東秀憲
第 3 回	『鍼治療講座』宮川浩也

第70回日本東洋医学会学術総会 特別演題プログラム

会頭講演	漢方の「小成」から「大成」をめざそう！	演者：花輪 壽彦 座長：石野 尚吾
特別講演	(1) 暗黙知と形式知	演者：野中郁次郎 座長：小田口 浩
	(2) 合気道とは	演者：植芝 守央 座長：花輪 壽彦
	(3) 日本の医療の過去・現在・未来	演者：松本 吉郎 座長：花輪 壽彦
教育講演	令和版『医界之鉄椎』 ～日本漢方、五つの作法～	演者：秋葉 哲生 座長：中田 敬吾
招待講演	(1) AI' IoT' Big Dataが繋ぐ 東洋医学と西洋医学	演者：水野 正明 座長：小田口 浩
	(2) Kampo in Europe: Current Situation and Challenges for the Future	演者：Bernd Kostner 座長：及川 哲郎
	(3) Implementation of WHO TM strategy 2014-2023	演者：Zhang Qi 座長：伊藤 隆
	(4) 医療制度を取り巻く現状と課題	演者：吉元 重和 座長：佐藤 弘
シンポジウム	教育シンポジウム 漢方医学教育の現状と課題	座長：新井 信 松田 隆秀
	標準化シンポジウム 漢方診察法の標準化について	座長：小田口 浩
	医史学シンポジウム 現代漢方を揺るがす新出資料の発見	座長：武田 時昌 郭 秀梅
	1部：中国新出資料－中国医学成立の真相－ 2部：日本新出資料－日本漢方の種々相－	座長：山崎 正寿 町 泉寿郎
	鍼灸シンポジウム1 経絡・経穴とは何か？－その科学的アプローチ－	座長：伊藤 剛 若山 育郎
	鍼灸シンポジウム2 現代医療における鍼灸のこれからの役割	座長：形井 秀一 久光 正
	生薬シンポジウム 漢方薬利用の近未来～最近の研究成果を踏まえて～	座長：合田 幸広 袴塚 高志
	養生シンポジウム (※市民公開講座) 養生を知り、現代に活かす	座長：小林 義典 早崎 知幸
	公募ワークショップ 漢方薬の新しい臨床応用 ～伝統を継承しつつチャレンジに使う～	座長：井齋 偉矢 貝沼茂三郎
	伝統医学 セミナー	第1部：現代漢方医学の礎を築いた北里の先達たち
第2部：岡部素道先生の鍼灸の実際 (実技)		演者：相澤 良 進行：周防 一平

鍼灸医学関連セミナーの充実や医史学セミナーなど北里ならではの企画を充実することが出来たのも大きな収穫であった。本部企画の国際会議なども組み込み盛り沢山の内容となった。

特記すべきは、薬剤部・鍼灸診療部の全面的協力を得て、漢方薬・生薬・鍼灸を「五感で楽しむ」体験型コーナーが設置されたことで、生薬に触れられる「茯苓突き」や鍼灸手技などを初めて体験できた、と多くの喜びの声を頂いた。このコーナーで北里大学東洋医学総合研究所（東医研）の軌跡を紹介した。東医研の所員および関東甲信越支部役員の皆様の献身的な協力に心から感謝申し上げます。



第70回日本東洋医学会学術総会ポスター



生薬豆知識

ダイオウ
大黄

薬剤部 小泉 洋太



とにかく、私は「大黄」様に会いたかった。というのも学生時代に大黄甘草湯の研究をしており大黄には思い入れがあったからだ。しかし、いくつも薬用植物園を巡ってきたけれど「大黄」様には、いまだ会えずにいた。

大黄甘草湯とは大黄と甘草2つの生薬で構成される漢方薬である。主に便秘に使われる。煎じ薬やエキス剤に代わる新しい剤形を考える目的で「エスプレッソ抽出」の検討を行った。ご存じのようにエスプレッソとは、コーヒー豆を粉末状に砕き、圧力をかけて瞬間的にお湯を通して作るコーヒーのことだ。コーヒー豆の代わりに漢方薬を使ったらどうだろう？短時間で煎じ薬と同等の液体が得られるのであれば、その可能性を感じないだろうか？実験中、私は大黄と格闘していた。粉末状にするために「薬研」（タイトル帯の絵）という昔ながらの粉碎器でゴリゴリ砕きながら。どうして電動式の粉碎器を使わないのか？粉末が細くなりすぎるからだ。ほどよく粉末状にするためには「薬研」がちょうどよかった。おかげで研究室には大黄の粉が舞い、私も粉まみれになっていた。そして同僚にはだいぶ不評をかっ

た。そんな大黄に私は自然と愛着がわいていたのだ。

さて、どうして植物園でなかなかお目にかかれなかったのだろうか？実は巻頭の生薬解説にその答えはある。そう、大黄は海拔3000mを越す高冷地に自生する植物なのだ。北アルプスの乗鞍岳山頂が3026mといえば、その高さがイメージできるかもしれない。だから、通常の植物園では生育しがたい。

そんななか、「大黄」様と会うチャンスが私に突然やってきた！中国出張である。昨年7月、私は中国の甘粛省へ大黄視察に向かった。栽培地は当然3000mオーバー。高山病にビクビクしながらも、飛行機、電車、車とあらゆる交通機関を駆使してたどり着いた。夕方6時、空はまだ明るく、白い月が浮かんでいた。なだらかな緑の斜面が果てしなく広がる。「大黄」様はそこで私が来るのを直立不動でずっと待っていてくれた——ように思えた。

発音からは「大王」様をイメージさせる大黄。しかし、そんな偉そうな素振りは一切みせず、中国の奥地から私たち人間の医療に多大なる貢献をしてくれている。



大黄（原形と刻み）



根茎と根の断面



大黄の花茎（甘粛省）

カッパの申し訳

北里大学客員教授 伊藤 剛



東洋医学総合研究所（東医研）外来待合ロビーの壁に一つの画賛が掛け掛けられているのはご存じでしょうか？私が東医研に入所させていただいた1996年当時から、東医研旧棟の漢方外来待合に、薄汚れたまま壁にかけられていたものです。

そこには「**待ってるお前もつらかるが、待たすこの身のなかつらい**（藪医知愚庵）」との文が、待ちくたびれ伏せているカッパとあくびをしているカッパの患者さん達、さらに申し訳ないと頭を下げた知愚庵先生と思しきかわいいカッパの絵に添えられています。

この知愚庵とは、実は東医研創設期に鍼灸客員部

長であった間中喜雄先生の雅号です。私はそれまで大学や市中病院で多くの患者さんを診ながら常に感じていたジレンマを、数行の洒脱な言葉で言い表したこの画賛にいたく感銘を受けました。

間中先生は、1911年小田原生れ。京都帝国大学を卒業後外科医になり、1937年小田原で間中外科医院を引き継がれました。1960年には東洋鍼灸専門学校校長になられ、岡部素道先生が当鍼灸診療部を開設された翌年の1974年に、北里研究所付属の東医研に来られました。当時、間中先生は、イオンパンピング法など新しい鍼治療方に取り組み、語学においては日・英・独・仏・中の5カ国語を操り、国内外に



において鍼灸の普及にも努められた先生です。1980年には日本医師会最高優功賞を授与され、またこの画賛のように、本質を突いた洒脱な画賛や随筆でも有名でした。

現在、漢方と鍼灸の外来では、私も患者さんをお待たせする事が多く、大変申し訳なく思っております。たまに予約時間通りにお呼びすると、患者さんに「今日はどうかしたんですか？早く呼ばれてびっくりしました」とか言われてしまいます。私の外来だけではありませんが、東医研に来られる患者さん

方の中には、現代医療では原因が突きとめられなかったり、原因が分かっても治療法がなかったり、難治であったり、また精神的な問題を抱えている方も多くいらっしゃいます。さらに東洋医学では、舌や脈を診たり、腹や背を診たりと現代医療より詳細な診察を行ない治療法を決定するため、患者さんの体調により外来も予定通りに進まないのが実情です。私自身、時間通りに診療を終わらせたい気持ちと、時間をかけても患者さんの苦痛を軽減してさしあげたいという気持ちとの間で常に葛藤している次第です。

しかし治療とは、私たち医師や鍼灸師が一方的に行なうものではなく、患者さんご自身の協力がなければ成功しません。言わば診療スタッフと患者さんとの共同作業です。実際に病気を治しているのは、漢方薬でもなく、鍼灸でもなく、まして私でもなく、患者さんご自身の治癒力なのですから。

最後に、診察や治療において、いつも我慢して下さっている患者さんに感謝しつつ、もう一つ、間中先生の画賛の言葉をご紹介します。

「薬にがし、鍼灸痛し、さりながら死ぬよりつらき病治さん、ごしんぼう、ごしんぼう（知愚庵）」

東洋医学総合研究所 漢方鍼灸治療センター 外来案内

漢方科 2019年10月～						
	月	火	水	木	金 土 ^⑤	
午前	花輪 ^① 星野 石毛	花輪 鈴木 森(裕) 石毛	花輪 ^② 川鍋 石毛 齋藤	花輪 小田口 森(瑛)	伊藤(剛) 鈴木 星野 森(裕)	小田口 及川 鈴木 星野 森(裕) 川鍋 石毛
午後	森(裕) 川鍋 丸山 【冷え症外来】 鈴木	伊藤(剛) 鈴木 川鍋 伊東	星野 石毛 遠藤	小田口 及川 ^③ 五野 森(瑛)	星野 森(裕) 伊東 遠藤 【冷え症外来】 伊藤(剛) ^④	

休診日：日曜日・祝祭日・年末年始(12/29～1/3)
ホームページ：http://www.kitasato-u.ac.jp/tou-i-ken/

鍼灸科 2019年10月～						
	月	火	水	木	金 土 ^⑤	
午前	伊藤(剛) 黒岩 石原 小山	柳澤 井田 石原	石野 井田 黒岩 石原	伊藤(剛) 伊藤(雄) 小山	伊東 黒岩 近藤 石原	伊東 井田 黒岩 伊藤(雄) 近藤
午後	井田 近藤 石原 小山	黒岩 伊藤(雄) 近藤 石原	伊東 伊藤(雄) 近藤 石原	井田 黒岩 伊藤(雄) 小山	伊藤(剛) ^⑥ 井田 伊藤(雄) 石原	

※黒字は男性医師または男性鍼灸師
赤字は女性医師または女性鍼灸師
※専門外来では一般の患者様の診療も行っています。

- ① 月曜日午前の花輪医師の外来は、初診の方のみとなります。
- ② 水曜日午前の花輪医師の外来は、第2が休診となります。
- ③ 木曜日午後の及川医師の外来は、第2木曜日のみとなります。
- ④ 金曜日午後(第1・3)の伊藤(剛)医師の冷え症外来は初診のみとなります。
- ⑤ 土曜日の外来は、交代制となります。スケジュールはホームページまたは予約電話へお問合せください。
- ⑥ 金曜日午後の伊藤(剛)医師の外来は、第2・4のみとなります。

予約電話：03-5791-6169
(月～金) 8:30～17:00
(土曜日) 8:30～12:30
お薬に関するの問い合わせ：
03-5791-6167
その他のお問い合わせ
代表：03-3444-6161

初診受付時間

漢方科	月～金曜日	土曜日(午前のみ)
午前	8:00～10:30	8:00～10:30
午後	12:50～15:00	

鍼灸科	月～金曜日	土曜日(午前のみ)
午前	8:00～10:00	8:00～10:30
午後	12:50～14:30	

再診受付時間

漢方・鍼灸	月～金曜日	土曜日(午前のみ)
午前	8:00～11:00	8:00～11:30(鍼灸) 8:00～12:00(漢方)
午後	12:50～15:30	

漢方ドック

月～金(完全予約制)
9:00～15:30



WEBサイト